

さらに5校の廃止を提示

都立定時制存続を④

私たちの運動も及ばず、2018年度には雪谷高定時制、2019年度には江北高定時制の生徒募集が停止になりました。以後、小山台高定時制と立川高定時制2校の存続運動を進めてきましたが、2023年10月の教育委員会で立川高定時制の生徒募集停止も予告されました。

翌2024年8月、都教委は定例会に「都立高校におけるチャレンジサポートプラン（案）（以下「プラン案」）を提案し、小山台高定時制に加えて、新たに桜町高、大山高、北豊島工科高、蔵前工科高、葛飾商業高の5校の定時制を2026年度に募集停止すると発表しました。

「困難を抱える生徒の受入環境の充実」策として、「チャレンジスクール及び昼夜間定時制の規模を拡大し、十分な受入環境を確保し」、「一部の夜間定時制を、学科ごとに地域バランス等を考慮した上で募集停止を実施し、生徒を適切な環境の学校で受け入れる」というのです。

「困難を抱える生徒の受入環境の充実」策として、「チャレンジスクール及び昼夜間定時制の規模を拡大し、十分な受入環境を確保し」、「一部の夜間定時制を、学科ごとに地域バランス等を考慮した上で募集停止を実施し、生徒を適切な環境の学校で受け入れる」というのです。

チャレンジスクールや昼夜間定時制については後で説明しますが、さまざまな困難を抱える生徒を一番受け入れているのは夜間定時制です。これらの学校とともに夜間定時制も充実させるというのなら話は分かります。しかし、困難を抱える生徒が最も必要としている夜間定時制を減らすことがどうして充実策になるのか、まったく理解できません。立川、小山台と合わせて7校の定時制を一挙に廃止する暴挙です。今回もまた「なぜこの5校なのか」という説明はありません。

「プラン案」は、「一部の定時制を募集停止」しても「生徒を適切な環境の学校で受け入れる」としていますが、果たしてどうでしょうか。台東区にある蔵前工、板橋区にある北豊島工は工業高校、葛飾区の葛飾商業は商業高校です。チャレンジスクールや昼夜間定時制には工業高校も商業高校もあります。夜間定時制でも工業高校は8校しか残らず、遠くに通わざるを得なくなります。商業高校に至っては江東区の第三商業と国立市の第五商業しかありません。葛飾地域からどうやって通えというのでしょうか。「適切な環境での受け入れ」は到底無理です。

しかし「プラン案」は2024年10月の教育委員会ですのまま決定されてしまいました。（多賀哲弥・元都立定時制高校教員）



7校の廃校計画を知らせるチラシ